

2020 年度事業報告書
(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

事業の状況

本年度の当財団の事業は、世界規模の新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響を受け、状況に応じて柔軟に対応し、以下のとおり行った。

1. 助成事業

当財団は、情報科学の国際的研究交流を推進することを目的とし、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を行っている。

1.1 研究者交流助成及び外国人研究者交流助成

研究者海外派遣助成は、将来を担うべき有能な若手研究者を対象に海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成するもので、外国人研究者交流助成は、将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成するものである。本年度は、COVID-19 の影響により、海外渡航が困難となり、また、国際会議は現地でのオンサイトではなく、オンラインを利用したデジタル開催となっていたことを踏まえ、助成事業の主旨の範囲内において助成内容及び方法について一部変更し、以下のとおり実施した。

日本に在住する将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会のための参加登録費の一部を助成した。

①募集・選考

助成募集要項及び申請書は 7 月 1 日に財団ウェブページに掲載するとともに、9 月 7 日に大学等学術研究機関の情報系関連部署 141 ヶ所に募集案内を郵送した。7 月 1 日～9 月 30 日の期間公募し、16 件の申請があった。

10 月 27 日に電磁的に行った選考委員会において審議し、論文採録の条件付き内定 1 件を含む 9 件を採択した。

②決定・交付

選考委員会の選考結果及び内定者の論文不採録結果を受け、理事長が 2020 年度助成金交付対象者を決定し、下記表のとおり 8 件に助成金を交付した。

助成件数 8 件、 助成金交付総額 156,013 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
佐々木 一織 秋田大学理工学研究科 博士前期課程 1 年	The 11th International Conference on Advances in Information Technology - IAIT2020	21,048 円
井上 拓晃 公立諏訪東京理科大学工学部 嘱託助教	22nd International Conference on Human-Computer Interaction - HCI2020	37,994 円
堀 雅陽 公立諏訪東京理科大学大学院工学・マネジメント研究科 博士後期課程 2 年	22nd International Conference on Human-Computer Interaction - HCI2020	27,045 円
NGUYEN BA HUNG 北陸先端科学技術大学院大学知識科学系 博士研究員	The European Conference on Machine Learning and Principles and Practice of Knowledge Discovery in Databases - ECML-PKDD	12,458 円
小菌 凜人 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 博士前期課程 1 年	The 2020 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics - IEEE SMC 2020	21,568 円
青木 里穂 群馬大学大学院理工学府 博士前期課程 2 年	The 29th IEEE Asian Test Symposium 2020 - ATS 2020	10,000 円
荻原 岳 群馬大学大学院理工学府 博士前期課程 1 年	The 29th IEEE Asian Test Symposium 2020 - ATS 2020	10,000 円
小川 太駆郎 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 博士前期課程 1 年	54th Annual Hawaii International conference on System Sciences - HICSS-54	15,900 円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が協同で行う調査研究交流に対する助成であるが、2017 年 6 月の全体報告会后、本事業については休止している。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC2020)開催

競技開催費 2,333,670 円。

ICPC Foundationが年1回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選としてICPC2020横浜大会を慶應義塾大学と共同で開催した。

①経緯

開催協力校を慶應義塾大学が務め、ICPC2020 横浜大会を行うことを財団 ICPC 運営委員会の決議を経て理事長が決定した。

②実施概要

日程： 2021 年 3 月 16 日、17 日

方法： インターネットを利用したオンライン開催（神奈川県横浜産貿ホールにおいて現地開催を予定していたが、COVID-19 の状況が改善することなく、オンライン開催となった。）

主催：（公財）情報科学国際交流財団、ICPC 横浜大会実行委員会、慶應義塾大学

実行委員長： 高田眞吾（慶應義塾大学教授）

審判長： 前原貴憲（理化学研究所）

内容： 大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われ、本大会はアジア地区予選に該当する。当初は、7 月にインターネットを利用した日本国内予選を行い本選進出チームを選抜し、さらに他のアジア各国から海外チームを受け入れ、全 70 チームで 11 月 8 日、9 日に横浜産貿ホール（神奈川県横浜市）等において本選を行う計画であったが、COVID-19 が世界中に影響を及ぼし、日程及び方法を変更せざるを得なかった。本選を 2021 年 3 月 16 日、17 日に延期し、他のアジア各国からの渡航制限があるため国内 40 チームのみで開催することとした。それに先んじて国内インターネット予選も 11 月 6 日に延期し、国内の大学で設けられていた通学規制や課外活動制限を考慮し、参加条件等を緩和した国内予選参加ルールを作成のうえ実施し、86 校 297 チームが参加し、29 校 40 チームを選抜した。

その後直前まで運営委員会で開催方法について検討を重ねたが、COVID-19 の状況に好転が見られず、一堂に会して現地で大会を開催することを断念し、以下の内容を含む本選特別ルールを定め、オンラインを利用して本選を開催することとした。

- ・ チームメンバーが集まることを認めず、各々は独立した場所から参加する。
- ・ 各々が計算機 1 台のみを使用して参加し、それぞれが解答を提出できるものとする。
- ・ コンテストシステム（問題文の取得、解答の提出、順位表の確認など）の利用に際しインターネットにアクセスすることを認める。
- ・ チームメンバーの連絡に際しインターネット（SNS やビデオ会議システム等）及び携帯電話の使用を認める。
- ・ 印刷資料のほか電子的リソースの参照は認めるが、自動翻訳サイトの使用は認めない。
- ・ 参加者への信頼を公平・公正の担保するためルールを遵守する旨の誓約書の提出を求める。

コンテスト時間は 5 時間、問題（英文）は 11 問で、オンライン開催でのコンテストについては、全チームの参加を得て、特段の問題もなく終了した。オリエンテーションや審判講評・結果発表・表彰式では Zoom（ビデオ会議システム）と YouTube Live（動画配信）で行った。懇親会では

Gather.Town(オンライン交流ツール)を使用し、選手、コーチのほか、OB/OG や協賛企業のエンジニアなど多くの参加があり、盛会のうちに終えることができた。

運営に際しては、実行委員、審判団のほかに、ICPC の OB/OG の協力を仰いで行った。

参加数： 国内予選・・・ 86 校 297 チーム

横浜大会本選・・・ 国内 29 校 40 チーム

結果(大学順位)： 1 位東京大学、2 位京都大学、3 位東京工業大学

世界大会への進出チーム及び日程については未定となっている。

(2) ICPC に関わる予備練習会の開催

過去の ICPC 参加経験者(OB/OG)の協力のもと行う技術向上を目的とした予備練習会については、COVID-19 の状況を鑑み開催しなかった。

(3) セミファイナル大会への派遣

横浜大会で優秀な成績を収めたチームを 2020 年 12 月にハノイ(ベトナム)で開催予定の東南アジア地区セミファイナル大会へ派遣する計画であったが、COVID-19 の影響によりセミファイナル大会は中止となり、派遣は行わなかった。

(4) ICPC2019 横浜大会からの世界大会派遣

2019 年 11 月に行った ICPC2019 横浜大会で優秀な成績を収め決勝進出の権利を得た 4 チーム(東京大学・会津大学・筑波大学・京都大学)の選手・コーチと大会運営に携わる教員を 2020 年 6 月にモスクワ(ロシア)で開催予定の世界大会へ派遣する計画であったが、COVID-19 の影響を受け延期となり、派遣は行わなかった。2021 年 11 月に開催予定となっている。

以上